



二葉だより

令和4年6月30日 NO.4
墨田区立二葉小学校
校長 山崎 隆



令和の怪物の秘密と子供たちの学び

校長 山崎 隆

6月13日から16日に学校公開を行いました。今回は各教室の参観者を授業ごとに5人程度に制限して実施しました。オンライン以外での学校公開は3年ぶり、1・2・3年生にとっては入学後初めてになります。子供たちは少しの緊張とうれしい気持ちが入り混じりながら過ごしていました。当日は、パーティションで仕切りながらリコーダーを使うなど感染予防をしながらの学習、一人1台のタブレット端末を使った学習、高学年の教科担任制なども参観していただきました。保護者・地域の皆様には、本校の教育の一端をご覧いただき、ありがとうございました。

また、例年この時期に実施している体力テストの様子もご覧いただきました。昨年度の体力の状況は、「上体起こし」「反復横跳び」「50m走」は各学年とも東京都や全国の平均をほぼ上回りますが、「握力」「20mシャトルラン」「ソフトボール投げ」に課題があります。ボール投げは、体重を乗せた足から踏み出す足に体重を移動させる、肘を高く上げて腕を大きく振る、手首のスナップを効かせるなどの体の使い方、投げる角度や方向などポイントがいろいろあり、経験の少ない子供にとってはなかなか難関です。

ボール投げを極めた人にプロ野球のピッチャーがいます。1軍登録されているピッチャーは12球団で約150人ほどですが、その中でも「令和の怪物」佐々木朗希投手（千葉ロッテマリーンズ）の活躍は驚きです。佐々木投手は4月10日の試合で、これから長く語り継がれるようなとてつもない記録を打ち立てました。27人の打者に対して1人の走者も出さない「完全試合」を、13人連続三振のプロ野球新記録や27個のアウトのうちの19個が三振というプロ野球タイ記録で飾りました。

佐々木投手はプロでもなかなか出せない球速160km台のストレートと140km台後半の変化球が武器ですが、そのスピードの違いと狙ったところに投げられるコントロールのよさが素晴らしい投球につながっているといわれます。では、その秘密は何でしょうか。ひとつは、「動きの再現性」です。あるテレビ番組で見たのですが、佐々木投手は練習でキャッチボールをするときの動き（フォーム）が常に一定なのだそうです。体重を乗せる足と前に踏み出す足の足跡がそれぞれいつも重なっていて、練習場の地面の土に足跡がきれいに残っているそうです。もうひとつは、「もぞもぞ」です。佐々木投手が投げる動作をよく見ると、投げる前に体を“もぞもぞ”と揺らしています。これは、体を動かしながら体のバランスがいちばんよい状態を確認しているのだそうです。足の上をしっかり腰が乗って、腰、背中、首、頭がひとつの軸のようになる場所を探しているのです。バランスよく投げる動作に入っているから思い通りのボールを投げられるのです。

ここで、令和の怪物の秘密を子供たちの学習の場面に置き換えてみましょう。「動きの再現性」は、「いつでも・どこでも・誰にでも」使えるそして伝わる考え方をみんなで話し合う学習です。これから具体的なお話に入りますが、紙面の都合で次の機会といたします。さらに、もうひとつの秘密「もぞもぞ」についても子供たちの学習に関連付けてお話ししていきます。